



The113th Annual Meeting of the Japanese Society of Pathology
第113回日本病理学会総会 ランチョンセミナー4
共催:第113回日本病理学会総会
株式会社ニコンソリューションズ



病理検査におけるデジタル正立顕微鏡

Diagnostic Pathology using digital microscopy



前田 一郎 先生

北里大学医学部病理学/北里大学北里研究所病院病理診断科

世界を取り巻く病理の状況は激変しており、特に病理のデジタル化が急速に普及している。しかし、日本の病理のデジタル化は一向に進まない。原因は幾つか考えられるが、コストが高い点とワークフロー変更の煩雑さがある点であろう。『ECLIPSE Ui』はデジタル顕微鏡で、手元にある標本を光学顕微鏡と同様に設置し、モニターに映し出される画像を観察する。光学顕微鏡との違いは一点だけ、顕微鏡を覗いて観察するか、モニターをみて観察するかである。デジタル化された画像の利点は機械学習、AIによる解析が可能である。『ECLIPSE Ui』は現状の病理ワークフローの変更を必要とせず、さらに、病理画像の解析を可能とする点に将来性が望める。

デジタル正立顕微鏡を用いた 複数免疫染色標本の重ね合わせ解析

Overlay analysis of multiple immunostained specimens using digital imaging microscope



佐藤 慎哉 先生

神奈川県立がんセンター臨床研究所 形態情報解析室

生体組織に存在する細胞の性状は、特異性の高い蛋白質発現の組み合わせから明らかにされる。このため、細胞の性状検索には複数の免疫染色が必須である。Uiは組織内の細胞における複数の蛋白質発現を、WSIを必要とせず簡便・容易に検索できるツールであり、生体組織を用いた研究・診断いずれにも有用である。今回はマウス組織を用いた研究からその機能を紹介する。

病理診断のデジタル化を推進する新しい医療機器

堀江 真一郎 (株式会社ニコンソリューションズ)

日時

3/28 (木) 12:10-13:00

会場

第5会場

(名古屋国際会議場 4号館1階 白鳥ホール (南))

<参加方法>

ランチョンセミナーチケットを各セミナー開催日当日に配布し、お持ちの方から優先的にご入場いただきます。チケットの数には限りがありますので予めご了承ください。

配布時間: 3月28日(木) 8:00-11:55
配布場所: 名古屋国際会議場 1号館1F アトリウム

※チケットが余り定員に余裕がある場合は、チケットをお持ちでない方もご入場いただけます。
※ランチョンセミナー開始と同時にチケットは無効となります。

<共催>

113回日本病理学会総会 / 株式会社 ニコンソリューションズ

<お問合せ先>

株式会社ニコンソリューションズ バイオサイエンス営業本部
Email: Nsl-bio.Marketing@nikon.com